

## ●開催校企画テーマセッション(80分)

「二人称的な他者との対話を語り直す起業家  
—建築学と経営学との協奏による時間の重ね描き—」

ワークショップ形式

◎伊藤 智明（京都大学 経営管理大学院 特定助教）

乃村 一政 氏（株式会社 SOUSEI Technology 代表取締役）

柳沢 究 氏（京都大学大学院 工学研究科 准教授）

福本 俊樹（同志社女子大学 現代社会学部 助教）

### [概要]

10月17日(土) 10:00～11:20 B会場

代表報告者の伊藤智明(経営学研究者)は、乃村一政(企業家)が住宅業界でスタートアップを設立してから9年に渡って対話を継続し、その逐語記録を蓄積してきました。柳沢究(建築学研究者)は、新旧異なる時代の建造物が交わる「融合寺院」「重ね描きの改修」をテーマに研究を進め、現在は乃村が設立したSOUSEI Technologyと住宅における人々の行動履歴を蓄積するための共同研究を行っています。福本俊樹(経営学研究者)は、調査対象者と研究者が長期に渡って関わり合う定性的方法論を伊藤と共に開発しています。

以上、報告者達が取り組んでいるいずれのプロジェクトにも、「異なるもの(者)・異なる時間を共存させる」という視点が通底しています。本セッションの狙いは、これら「異なるもの」をつなぐインターフェースとしての経営学を探求することにあります。

### [参加者へのメッセージ]

本セッションはワークショップ形式で行います。福本のイントロダクション、柳沢の建築に関する「融合寺院」と「重ね描き」の解説、乃村の起業プロセスでの二人称的な他者との対話の語り直し、伊藤のファシリテーションによる報告者と参加者とのディスカッションの4つのパートで構成します。ディスカッションもプロジェクトを拡張する、さらなる語り直しのきっかけと考えています。

乃村と伊藤は2011年4月から起業家と研究者との対話記録法を「ことばの交換」と名づけ、開発してきました。継続の理由を問われたら、起業マネジメントの実務と研究との相思相愛の理想形を探究してみたかった、と答えます。起業家的な旅にぜひ同行してください。